

救急医療の状況について

本年3月末に7名が退職した救命救急センターのその後の状況や新たな救急外来の取組などについては、下記のとおりです。

記

1 救命救急センターの診療体制と受入状況について

(1) 診療体制について

平成29年7月1日から1名を採用し、9月にも1名が予定よりも1か月早く復帰し、現在は7名が在籍している。このほか、8月から3名の初期研修医がローテーションで臨床研修を行っている。

また、引き続き、北海道大学及び札幌医科大学からの診療支援をいただき、24時間365日の受入れ体制を維持している。

(2) 3次救急患者*の受入状況

平成29年4月から9月までの3次救急患者の受入件数は286件で、前年同時期の324件と比べ、やや減少しているが、応需率（受入要請数に対する受入数の割合）は前年度と同レベルを確保している。

(3) 今後の予定について

現時点で明確な増員の見通しが立っている状況ではないが、大学に対する人事の相談を重ねてきているところであり、引き続き要請を継続し、1日も早く常勤医を増やせるよう取り組んでいく。

* 3次救急患者：生命に危険が及ぶような重症・重篤患者である救急患者

2 新たな救急外来の取組みについて

市内病院の救急バックアップ（地域医療支援病院としての役割）と研修医の育成を主な目的に、3次救急以外の救急患者の受け入れを平成29年5月8日から開始している。

診療体制としては、救命救急センターとは別に、院内全体でローテーションを組んで行っており、これまで大きなトラブルなく職員一丸となって取り組んでいる。

受け入れ開始から9月末までの受け入れ件数は839件で、そのうち約半数が入院となっている。

なお、三次救急、二次救急輪番なども含めた9月末までの病院全体の救急車の受け入れ件数は1498件（前年同時期1129件）となっている。